

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	文学部
大項目	9 教育研究等環境
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備
	ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備
	教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学部における担当授業数および職務分掌の公平化・平均化による研究専念時間の確保と増加を図る。	→ 「文学部各種委員等分担表(数年分)」、「大学執行部役職者一覧(数年分)」、「専任教員の担当授業時間」、「科研費申請数」、「入試問題作成・採点業務分担」	B	B			
2. 文学部の授業実態に合わせた教育設備・機器の充実化を行う。	→ 「文学部本館・F号館のAV機器設置状況」、「文学部本館・F号館のコンピューター端末設置状況」、「コンピューター設置状況(他大学との比較)」	A	B			
3. 外部研究資金獲得に関する実態調査と、応募促進のための仕組み作りの検討を開始する。	→ 「科研費申請応募・採択状況」	C	B			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆	小項目9.0.4	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。 (説明) ここ数年間、教学補佐・実験実習補佐・教務補佐等の人数はほぼ同数で推移しており、教育研究支援体制の整備は現状を維持している。
☆	その他	

《評価指標データ》

(特定指標データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【文学部】			単位	2007	2008	2009	2010	2011	備考
指標1	教学補佐、実験実習補佐・教務補佐、 授業補佐の採用数	教学補佐	人	41	42	40	42	44	他に、契約助手2 (2005、2006、2007、2008、2009、 2010、2011年度)
		実験実習 指導補佐・ 教務補佐	人	6	7	7	7	8	
		授業補佐	人	6	7	6	7	6	
指標2	専任教員の担当授業時間(平均)	教授	時間	11.4	11.4	11.4	12.6	12.5	45分をもって1時間に換算
		准教授	時間	10.4	11.1	10.0	14.0	11.8	
		講師	時間	10.0	—	—	—	—	
		助教	時間	—	—	—	—	—	

(その他の指標データ)

- 専任教員の研究費(実績)【大学基礎データ】
- 専任の研究旅費【大学基礎データ】
- 学内共同研究費【大学基礎データ】
- 教員研究費内訳【大学基礎データ】
- 科研費の申請・採択件数【大学基礎データ】
- 学外からの研究費の総額と一人当たりの額【大学基礎データ】
- 外部資金等導入状況【基本的な指標データ】
- 教員の研究室の整備状況【大学基礎データ】
- 学部、研究科ごとの講義室、演習室の面積・規模【大学基礎データ】
- 学部、研究科ごとの学生用実験・実習室の面積・規【大学基礎データ】
- 学部、研究科ごとの規模別講義室・演習室使用状況【大学基礎データ】
- 留学、特別研究期間制度、自由研究期間制度の利用状況【基本的な指標データ】

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目9.0.4	
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目9.0.4	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目9.0.4	
その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目9.0.4	
その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

その他 (自由記述)	
---------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○課題はいろいろありますが、C評価である外部研究資金獲得への対応が進むことが望まれます。

【学内委員】

○教員の研究専念時間は近年においてますます圧迫されるようになってきております。それは単なる担当授業時間の問題ではありません。研究時間の確保と増加は焦眉の問題ですので、その実現に向けた努力が行われることを期待します。

○様々な委員になることが、研究の時間に影響するのはどの学部でも同じだと思いますが、一部教員に集中することがないような配慮が期待されます。

○昨年度方策として示されたことの進捗状況が分かりません。これらを記述することでPDCAサイクルが機能しているか確認することができます。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・研究時間の確保のために担当授業数および職務分掌の公平化・平均化が試みられていることは重要です。しかし、これがなかなか実現しないというのが通常でしょう。実現が期待されます。また、教学補佐・実験実習補佐・教務補佐等を利用することによる教育研究支援体制の強化が図られていることは重要です。

・学部内整備が進んでいることは評価出来ます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目9.0.4

基盤評価：「専任教員に対して、研究活動に必要な研究費を支給している」「専任教員に対する研究室を整備している」

○小項目9.0.4&9.0.5

達成度評価：「教育研究を支援する環境や条件が、その整備・運用状況等から見て、方針に沿い、適切である。その際、下記事項については、当該大学の特質に応じて、適切な配慮を行っている。

- ・研究専念時間の設定など、教員の研究機会の保障
- ・ティーチング・アシスタント（TA）、リサーチ・アシスタント（RA）等の人的支援
- ・研究倫理に関する規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

《現状の説明》 小項目9.0.4（説明）欄に既存文章のあとに以下の追加記述を行う。

★外部資金獲得に関しては、約25%の教員が獲得しており、それをよいことと捉えるという条件で考えれば、状況は進展している。